

コヴェントリーIIサイクル劇 (XV)

橋 本 侃

第二十一番演目 キリストと学者たち

今マサニ寺院デハ学者タチガいえすト論争中デアル。

写本百六頁

(1)

学者一 我ラ学者ハ学識ユエニ聖書ニオイテハ別扱イサレテイル。

われらより優れる聖職者はおらぬ。

学者二 我ラヲ花ニ喩エテミレバ、薔薇ノヨウナモノ。

いままでに、われらの学識に比べ得る聖職者はいなかった。

学者一 考えてもみよ、お前たちにどれほどの知識があるか、

読み方の、書き方の、正字法の知識が？

われらはすべての聖職者のうちでも高い評価を得ている、
文法と韻律と作詩法において。

(2)

学者二 どんな学者も本に纏められない、

われらが著わした散文を韻文に替える技術も、他の技術についても。

甘い音楽を求めて作曲する者がいても、

われらの域に達するには程遠い。

われらは論証学において、

詭弁学、論理学、それに、哲学においても卓越しておる。

われらがする議論に誰も反論できない、

形而上学においても、天文学においても。

(3)

学者一 占星計算においても、黒呪術においても、

また、アラビア数秘字においても、大学四教科のうちの算術においても、

地理学において固有な線をどのように配列するのがいいのかも、

自然科学に属する食餌療法と調剤における方法についても――

これらすべての技術において、われらに匹敵するものは誰もいない。

カトーの倫理学、ギリシャ語法も学理も、

加えて、修辞学に関わって何かを云々する場合にも、

世間の評判では、われらが最高位にある。

(4)

学者二 偉大なる教会法と民事法においても、

政策術においても、われらのに比べると、

誰のも取るに足りないものばかりだ。

われらはすべての業において卓越している。

左百六頁

それゆえ、この寺院内で、われらは高いところに座り、

至高の尊敬を一身に集めている。

30

これほどまでに価値ある人間はこの世にいない、

われら二人が占める最高位を保てるほどの者は。

(5)

イエス スベテノ知ハ主ナル神ニ帰スベキモノナリ。

すべての智慧と分別は神からの借りものである。

あなたたちが内に持つすべての智慧を

35

賜られた主にたいし、大いに感謝しなさい、

あなたたちの魂が慢心と傲慢とによってだめになるといけないから。

本当は智慧も分別もそんなに持ち合わせてはいないのだから、

神の御旨によつて、

多くの人があなたたちの知識を正してくれるといいが……。

(6)

学者一 この赤子め、早く家に帰つて、かあちゃんの膝に座り、

おマイマイを胸に下げ、

おっぱいを飲ませてくれてかあちゃんに頼め。

お前からものを学ぼうと聞き耳を立てるつもりはないわ。

学者二 ご飯を食べにゆきな、そいつが一番いい。

喉が渴いたら、お乳を吸いな。

それがすんだら、揺り籠へ入つてお休み——

本を読むよりそつちのほうがずっとお上手でしょうに！

(7)

イエス それほど智慧も分別もあるのなら、

この世がどのように造られたのか、言えて当然ですね。

この世があとどのくらい続くのかも述べられませんね、
求め続けて止まない知識のすべてをもってするなら。

学者一 いいや、この世の学者では誰も言えない――

そんなことを考えることは、われらの知力を超えている。

そんなことをしとげるなんて、

この世の終わりを言葉で表すことなんて人間にはできない。

百七 (55)

(8)

イエス この世がどのように造られ、いつまで続いて行くのか――

良く考えれば、わたしには告げられる。

その事に限らず、どの被造物についても、

その創造がどのようになされたのかは分かっている。

60

学者二 そのようなことを言うお前を叱ってやろう、物笑いの種にしてやろう。

文字もろくに読めない子供にどうしてそんなことができるのか、

このような知識の高みにまで登って、

あの不可解な偉大な創造の業が認識できるのか！

(9)

イエス すべてのことは知らされている、

65

三つの位格によつて——一つは三位一体の神である。

三つのうちの一つは人間の形を取つた——

血と肉は恵み深い乙女のものだ。

そして、この三つの位格の力によつて、

天と地とすべてのものが造られた。

すると、いと高き天主がこれを喜ばれたので、

すべてのものは命を必ずや長らえるのだ——決められた以上に長くなくとも。

(10)

学者一 神がすべてのものを造つたことは認めよう、

神がいなければ何も無いことも。

しかし、お前の言つたこと、その一つこそ、わしは否認する——

神だけが三つの位格を唯一持つところだ。

そのようなことはわしにとつては不可解なことだ——

一つが三つなどとは考えられない。

そのことをすぐに証明してみてくれ。

どうしても腑に落ちない。

(11)

イエス 子の中に三つのものを考えてみよ、

左百七

栄光と熱と光りの三つがあることを。

それはちょうど、一つの位格である子が三つの部分からなっているように、

三つの位格が力ある唯一の神であることなのだ。

学者二 確信を持って言うが、その論理は正しい。

だが、それでも、美しい子よ、お前に一つ頼みがある。

これら三つの位格のすべてをなんと呼ぶのかを

われらに教えてくれまいか——さあ、このわしに聞かせておくれ。

(12)

イエス 初めの位格は力ある父と呼ばれている。

二番目のものは智慧と分別の子であり、

三番目のものは慈しみの聖霊と呼ばれ、

これら三つの位格が一つの神性に組み込まれている。

学者一 それでもなお、お前にもう一つ質問をしたい。

その三つのうちの一つが血と肉を取ったとある。

しかも、取った先きが清潔な乙女の血肉であったとは信じられない。

清い乙女であって母でもあるなどということがあったためしがない。

(13)

イエス それは太陽の光りがガラスを突き抜けたのに、

ガラスの本性は傷つかないのとちょうど同じように、

神性が入り込んだのだ、

処女の子宮に——もちろん清い乙女であった。

その乙女の子は偉大な癒しを必ずや行うだろう。

悪魔を広大な荒野で打ち負かし、

大胆にも被造物を胸に抱き、天国へ連れ戻るだろう。

だが、その胸は人間を救うために必ずや引き裂かれるであろう。

(14)

学者二 この子の学説はわれらの智慧を凌駕している——

この子はひよつとして人間を超える天使でないかと思われる。

祝せられた赤子よ、それでも疑問が一つある。

お願いだから教えてくれ。

三位格のうちでどれが受肉を果たしたのだ？

悪魔に歯向かったあの戦いで持ちこたえたのはどれか？

イエス それは第二の位格である。

悪魔を必ずや攻撃するであろう。

(15)

学者一 なぜ他のでなく子の位格なのだ？

なぜ第一でも第三でもないのだ？

イエス 他の位格でなく第二のである確かな理由は、

第二の位格に対して罪が犯されたからだ。

アダムを罪に落とし入れた時に、

蛇は父の力に依らず人間を誘惑したのだ。

聖霊の善さについては何も口にせず、

ずる賢くアダムを誘惑したのだ。

(16)

力は父独自の特性であり、

聖霊には善が現れている。

蛇はこの二つの位格については誘惑しなかった。

よって、人間に罪を犯させるように準備した時に、

知が子に属していたことは明らかだ。

そこで、蛇はアダムを試した、

「この林檎を食べなさい」と。そして、加えて言った――
「お前は神のように賢くなれるだろう」と。

(17)

このように、第二位格の属性は

結局は誘惑によって試された。

それゆえ、行いを自分自身で慎しみ、

汚されぬように本性を守り続けることができるのだ。

学者二 これは天からの宣言だ――

生来のわれらの智慧を超えている。

こんなに年端の行かぬ子供からこのような知識が、

いままでこの世のどこにおいても発せられたことはなかった！

(18)

学者一 この座席をわれらが占めているのはふさわしくなからう、

われらを教える師が目の前にいるのだから。

この子はわれらを支配している――

高く崇敬しなくてはならない。

さあ、前に出ておいでなさい、きわめて卓越した優しい赤子よ、

今までに生まれた学者のうちでもっとも賢い聖職者よ、
あなたに高位の座席を献上します。

これまでのように、もっともつと教えてください。

〔ココデ、いえすヲ引キ入レ、ヨリ高イ座席ニ座ラセ、自分タチハヨリ低イ所ニ
座ヲ占メル。〕

(19)

学者二 こんなにも年端のゆかぬ子供がわれらのような大学者に近づき、

こんなにも真摯な物言いをするのは実に不思議だ。

あなたを教えた師は誰ですか？

このような価値ある教えを説いたのはどんな方だったのでしょうか？

イエス わたしの智慧とわたしの学問は幼い時に蓄えられたものではない――

言葉が造られる以前にすべてのことを知っていた。

先ずもつて、あなたたちが生まれるよりもずっと前に、

父の力によって、わたしの内に智慧は流れていた。

(20)

学者一 われらが生まれる以前には何もなかったはずだ。

われら二人のうちで歳が若いほう――と言っても、六十歳だ。

誰が見ても、あなたはただの子供にしか見えない！

顔立ちからだど、つい最近、揺り籠から這い出してきたようだ！

イエス わたしは二重の誕生を遂げている——二重の血統から生まれている。

最初の誕生は、わたしの父の業によるから、わたしには始まりがない。

そして、ちょうど高座にある父に終わりがないように、

わたしにも終わりはない。

百九

(21)

なぜなら、天の王であるわたしの父によつて

わたしには初めもなく、終わりもないからだ。

しかし、わたしには人間の肉を持つ母がいるから、

いま十二歳であることはつきりしている——

この若い肉体が何よりの証拠だ。

このように母からこの肉体を得ている。

しかし、それに劣らず、この肉体はわたしの高い神性の現れでもある。

この世のすべてのものをわたしは確かに造った。

(22)

学者二 終わりのないあなたの父にかけて言う——

誰があなたの母親なのかを言ってください。

イエス 至福の天の王である父にかけて言う、

わたしに母はいない。

学者一 ならば、誰がお前の父親なのかを言いなさい、

一人の女であったお前の母親にかけて言う。

イエス その意味では、わたしに父はいない——

母は決して肉欲の罪を犯していなかったからだ。

(23)

学者二 お前の名前を言ってください。

お前の母親はなんと呼ばれているのかも教えてください。

イエス ナザレのイエスというのがわたしの名前だ。

一人の清い乙女から生まれると預言者たちが言ったとおりだ。

イザヤがこのように言っている——見よ、一人ノ乙女ガ

清らかなまま身ごもるであろう、と。

しかも、見よ、自然の法則に反して、

乙女は罪のすべての穢れから離れ、清く、汚れなく身ごもる、と。

(24)

ヨアキムとアンナの子であるマリアこそが
当の清い乙女で、わたしがその子供だ。

かの胎内の果実が万人を必ずや救うであろう、

悪魔から責め苦しめられるという大きな恐怖から。

学者一 この世すべての聖職者たちで

このことを宣言できるような者はいない――

全能の神が

伝える力を授けてくれるのでなければ。

(25)

学者二 いいや、優しいイエスよ、お前に頼む、

われらがここにいるのは少しの間だが、

更にいぶかしいことを見つけた場合には、

その真実をわれらに言ってはくれまいか。

イエス あなたたちは学問の世界に戻ったほうがいいでしょう。

もっと都合の良い時を待ちましょう――

疑問のいくつかでも口にされれば、

その真実が分かるようにいたしましょう。〔場面はヨセフの家に移る。〕

マリア ああ、ああ、胸が苦しい。

(26)

祝福されたわたしの赤ちゃんが出て行ったきり帰ってこない。

ああ、どこへ行つてしまったの！

悲しみでこの胸は張り裂けてしまった。

ねえあなた、送り出したのですか、

どこかへ遣いにでも？

あの子がどこへ向かったのかあなたも知らないのなら、

わたしの心臓は、苦しみのあまり、高鳴るにきまっています。

(27)

ヨセフ あの子に遣いを頼んで送り出したのではない。

それは確かだよ、お前、そんなことはしていない。

出掛けてからどのくらい時間が経つたのだ――

最後に見たのはいつだ？

マリア 確かに、あなた、この三日、見ていません。

それゆえ、心配でなりません。

どこにいるか探しに行きましょう、

あなたも一緒に出掛けてください。

(28)

ヨセフ では、真つ直ぐエルサレムに行こう、

親族たちもよろこんで一緒に行つてくれるだろうから。

誰か良い友達と一緒にいるのならいいのだが……。

エルサレムになら、いとこがたくさんいる……。

マリア そんなに多くないと思います。

あの子には大いなる智慧と善行が数々あるものだから、

本当にあの子を好いている人は誰もいない――

どの子もあの子に腹を立てているのです。

(29)

おまけに、わたしの赤ちゃんはわたしの喜び、わたしの血なのです！

このようにわたしから離れて、お前はいまどこにいるの？

わたしの魂、わたしの愛しい子、わたしの果実、わたしの糧よ！

どこにいるのか少しは伝えてくれてもいいのに！

お願いです、あなた方、教えてください、

至福の赤ん坊であるわたしの子イエスが

お仲間になつてゐるのを見ませんでしたか？

神の至高の愛にかけて言います、どこにゐるのか教えてください。〔場面は寺院に重なる。〕

(30)

学者一 質問を一つ思いついたぞ、

祝福されているお前の母親に関わる疑問の一つだ。

どのような導きがあつて母親は育てられたのか、

夜も昼も、どのように母親はしつけられたのか？

イエス では、言ひましょう——老人であるヨセフは、

奇跡が起こつたおかげで、母を妻として迎え、

食物を与え、いつも身近においでいる。

二人とも清らかな処女と童貞のまままで暮している。

(31)

学者二 ならば、その必要がどこにある、

そんなに高齢の男と結婚する——

寢床を共にせず、

結婚の掟を守らないのなら！

左百十

240

235

イエス 悪魔の目からその事実をくらし、

わたしの誕生を隠すためだ。

その結果、聖なる結婚を大きな躓きとして仕組み、
悪魔に疑いを持たせたままにしておくためだ。

(32)

さらに、エジプトへ、

わたしの存在をいぶかるヘロデから逃れた時、

一人で逃れられるはずはなかったので、

ヨセフは母の伴侶になるべく命じられたのだ、

高き権威から。そして、わたしの父親は、

道中、母を慰めるべく命じられた。

おわかりのとおり、これが理由であった――

これが、かの聖なる乙女とヨセフが結婚したわけである。「マリアが見つける。」

(33)

マリア ああ、愛しい子、愛しい子、どうしてこんなことをしでかしたの？

お前のことを大いに心配し、悲しんでいたのですよ。

この三日というもの、お父様と一緒に

お前をあちこち探し回ったのに見つからなかった。

イエス なぜ深刻な顔をして探したのですか――

元気でないはずがないことが分かっていたでしょう？

わたしの父の財産の間にうもれて、

聖なる財産を監督していたのです。

(34)

マリア あなたの父の御旨は成し遂げなくてはなりません。

そうすることが一番価値あることです。

でも、母親のことをいくらかでも考えてくれたのですか？

こんなにも長いことわたしの元から離れていたのです――

わたしのことを考えてくれてもよかったのに！

この三日の間、わたしからずうっと離れていて傍にいなかった。

その三日の長さと言ったら、

十二年もの長さ全部よりも、ずっとずっと長いものでした！

(35)

イエス では、柔らかな母を喜ばせるために、

従順に後に従いましょう。

わたしはあなたの息子、家来で、子供です。

高い崇敬をあなたにたいして示す義務があります。

一緒に家に帰りましょう。

学者の皆さん、あなたたちともお別れです。

どの子供も勤勉さを良く發揮し、

自分の意思は捨てて母親を喜ばせるべきだ。

(36)

学者一 おお、イエスよ、あなたと一緒にわれらもゆきます——

あなたからもつと知識を得たいのです。

あなたの幸福な母親は十分に祝せられています——

あなたが受肉された方だから。

イエスよ、われらはあなたの慰めを願います。

もつとも必要としている時にあなたを得るために。

この芝居を聴いていただいた皆さん、

この演目をご覧いただいた皆さんが救われますように！〔一同、アーメンを唱える。〕

二十二番演目 洗礼者ヨハネ

ココニ、「洗礼者よはね」始マル。

左百十一

(1)

ヨハネ 見ヨ、荒野ニ呼バワル声ガスル。

百十二

わしは荒野野の声だ。

この場所から大声を上げて、あなた方に向かって説教をしている。

よいか、すべての悪徳を捨て、

苦しみを引き起こすすべての罪を捨て、

5

徳のあるものと聖なるものへ回心せよ。

魂の生活においても清潔でもあれ。

そうすれば、必ずや救われるであろう、

地獄の火へ投げ込まれる苦しみから。

もしも、罪を捨てるならば、

天の至福を必ずや勝ち取るだろう。

10

悪魔の罠を恐れるな、
必ずや天使と共に住むことになるう。

(2)

今ガ今、悔イ改メヨ、
天ノ国ガ近ツイタ。

15

罪のための改悛をせよ、

神ト神々ノ天国を必ずや勝ち取るだろう。

天の至福を必ずや獲得することになるう、

スベテノ優レタ祝福された仲間と一緒に、

すべての喜び、楽しさ、歓喜のうちにあるだろう。

20

天使ノ群レノ内ニ、

至福の内に留まるために、

洗礼を受けるように勧める。

罪のための改悛をし、

罪の償いを果たしなさい、

25

罪を覆い隠しなさい。

(3)

わたしはきれいな水の中で洗礼を授けている。

ヨルダン川と呼ばれる川の水に皆を浸す。

わたしが施す洗礼は印そのものだ――

主の洗礼の印で、類いのないものだ。

主は偉大な聖徳の主だ。

左百十二

30

わたしは主の靴紐をほどく奴隷ほどにも値しない人間だ。

なぜなら、聖書が記すように主は洗礼を必ずや施すだろう、

ユダヤの民の一人一人全部に、

聖霊の御名において。

35

主は人を救いもし、地獄へも落とすことができる。

われらには救われる者のすべての善良さがあり、

主の業を罵倒できる者は誰もいない、

もつとも力ある主だからだ。「ココデ、いえすハよはねニ近ツク。ソレヲ見タよ

はねハいえすヲ指差シナガラ言ウ。」

(4)

見ヨ、彼ガ世ノ罪ヲ除キタモウ神ノ子羊ダ。

40

見よ、神の子羊がこの方だ。

今ここに、わたしの目の前にやって来た。

世の過ちを必ずや洗い流し、

見捨てられたすべての者を必ずや救われるだろう。

確かに、この同じ子羊は

穢れがまったくない一人の乙女から生まれた。

この子羊は恥辱に充ちた死を

われらのためにこうむり、八つ裂きにされ、

十字架の上で裂き傷を必ずや負うだろう。

人間のために必ずや苦しまれるだろう、

ほとんど休みを取れず、大きな悲しみと傷を受け、

背中は刑柱に縛り付けられ、

殴られ、すべての血は必ずや外へ出てしまうだろう。

(5)

イエス 洗礼者ヨハネ、わたしの善き友よ、

わたしの意思を忠実に説教してくれている。

心からあなたにお礼を言いたい、

今までわたしにたいして施してくれた良き奉仕に対して。

あなたは罪の破戒を望み、

罪深い生き方を根絶させようとしている。

あなたの意思には善い目的があるので、

神の掟は成就されている。

このたび、このように

あなたのところへやってきたのは、あなたから洗礼を受け、

必ずや新たなものになる秘蹟を確かなものにするためだ。

ヨルダン川にわたしを浸し、

広い流れの中で洗礼を施してください。

(6)

ヨハネ わたしの主である神よ、わたしにはふさわしくありません、

わたしの手であなたに洗礼を施すのは。

むしろわたしのほうがあなたに聖なる洗礼を求めるべきでした、

あなたがわたしから受けられるよりも。

イエス さあ、ヨハネよ、わたしの思いどおりにしなさい、

そうなれば、わたしたちは義のすべてを成就することになる。

わたしに洗礼をしっかりと授けなさい。

そうすれば、従順の徳を教えることになるう——

わたしに倣つて、万人が習い覚え、

これを模範とするのだ、

あなたのところへいかに従順にやつて来たかの模範に。

さあ、洗礼を確実なものにしよう。

恐れずに、わたしに洗礼を施しなさい。

(7)

ヨハネ 見よ、すべての人はこれを模範とすることができよう——

わたしのところへ来られ、今ここに身を低くした主の従順さは

われらの主である神によるものだ。

主は貧しい家来で従者であるわたしのところへ来られた。

万人はこのようにすることを倣い覚えよ、

左百十三

王も、カイザーも偉大な皇帝も。

貧しい者に向かつて従順で謙遜であれ。

85

そして、いかなる振る舞いにおいても傲慢を捨てなさい、

神がこの場でまったく同じことをなされておられるように。

愛しいわたしの主よ、あなたの命令に従つて、

75

わたし自身も喜ばしい表情をしつつ、
きれいな水であなたに洗礼を施します。

あなたの名前が永遠に尊ばれますように。〔ココデ、聖霊がいえすに降り、神デ
アル天ノ父ガ空カラ言ウ。〕

(8)

父 これはわたしの愛する子。

わたしの霊を子の上に振り撒く。

この子は思いと行いにおいて、
体も魂もきれいで、清く、汚れ一つない。

子が従順で、言うままになり、心優しいことに
とても満足している。

すべての人間よ、どの場所においても子の姿を賢明に認め、

子の話を聞くように忠告する。

そして、耳で良く聞くように、

子が何を説教するのかを、よく注意し、

子が教える掟に従うのだ。

なぜなら、子はお前たちの「われら皆の」癒し手と必ずやなるだろう、

お前たちを黒い悪魔たちから救うために。

(9)

ヨハネ 今ここで、大きな目を開けて見えています、

あなたが神の御子であることを。

聖霊があなたの上に光りを当てています。

わたしにはあなたの父の声が素早く聞えました。

あなたが神の御子であるとはつきり告げています。

わたしが生きている間は、

どの人に向かつても必ずや証人となり、

この事を心のすべてをこめて確かに伝えよう――

それを止めることは大きな罪となりましょう。

神の御子としてあなたを崇敬します。

高い権威ある天から、

あなたは威厳ある天からこの地上へ来られた、

多くの魂を勝ち取るために。

(10)

イエス 洗礼者ヨハネよ、証人となりなさい、

真実を隠さないように注意しなさい。

これから荒れ野へ赴く。

聖霊がわたしの導き手だ。「ココデいえすハ荒野へ行ク。」

荒れ野という不快な場所で、

四十日もの長い間、

それにほぼ四十夜、

その場所に、肉体の糧もなく留まる。

このように人間としては辛いことを続ける。

荒れ野への道を辿ろう、

あなたがたに言っているように、人間のために。

四十日、四十夜、

何も食わず、何も飲まないだろう。

(11)

洗礼者ヨハネ わたしは通る先々で、証人となろう。

どこへ行こうが真実を必ずや述べ伝えよう、

神の御子キリストがわれらの友連れとなったことを、

われら人間の衣服に身を包み、われらのために苦しみを受けるのだ。

ちようどこの場所で、わたし自身の手でキリストイエスを授洗した。

135

そして、主は今、改悛をするために荒れ野に向かわれている。

主に匹敵する者がいないことを皆に教える一方で、

われらの罪のために、主はこの場所で改悛をなされた。

その改悛についてわたしは説教しよう――

左百十四

これこそ確かな証言である、と。

140

どのような人間も自分の過ちのために

ここで改悛することで、

魂を善く癒すことになるのだ。

(12)

地上に未だ生きているすべての人間は、

よいか、大きな罪にたいして改悛せよ。

145

なぜなら、神は慈しみを恵まれる用意を整えておられる。

犯した罪に対して悔い、改悛をなし、ひたすら信じるのだ。

自分に折り合いをつけ、神に対して好ましい者となれ。

悪魔を追い出すために、深い痛恨と改悛をもって告解せよ。

150

神はあなたたちと必ず友達となり、遠ざかることはない、

あなたたちを改悛へ動かし、
罪を捨てさせるために。

よいか、告解を口にするのだ。

そうすれば、真つ黒な地獄の悪魔が

あなたたちを苦しめることは決してないだろう。

(13)

不毛で果実を付けることない木を

持ち主は切り倒して、炉にくべてしまふ。

それと同じで、悪い道を辿る人間もそうなる――

地獄の悪魔の道を辿り、悪魔の望みを働く者は。

神は、口を利かず、耳も貸さない人間に復讐をされるはずだ、

告解をせずに気違いのような振る舞いを重ねるだけの者を。

清潔を身に付け、徳を着込め。

そうすれば、神は慈愛をもって直ぐにきつかけを与えてくださるはずだ、

あなたの過ちを償うように。

告解を口に出すことがあなたを救う一番のことだ。

どんな人でも必ず犯すのだから、犯した罪を悔い改めよ。

そうすれば、肉体が墓の中に横たえられた時に、
魂が喜悦へ向かうだろう。

(14)

善い穀物を人は清潔に貯蔵する。

なんの価値もない籾殻は直ぐ傍に打ち捨てられる。

それと同じで、善い生き方をしている人は選ばれて神に向かうのだ。

一方、罪深い人は籾殻のように必ずや地獄へ運ばれるだろう。

善い告解をするようにあなた方に心から説こう、

告解と贖罪をさらにもっと考えに入れるように説こう。

善き改悛と告解とが口を突いて出てきたら、

この世すべてを造られた神によって良く愛されている証拠である、

無からすべてのものを造られた神によって。

今や善き改悛をあなた方に教えたからには、

神が思いのままに慈しみを与えてくださるよう祈る、

罪からの許しを。

では、ここで、わたしはお別れをしよう。

【ここに、「洗礼」が終わり、「荒れ野の誘惑」へ続く。】